









利賀村史

2

近世

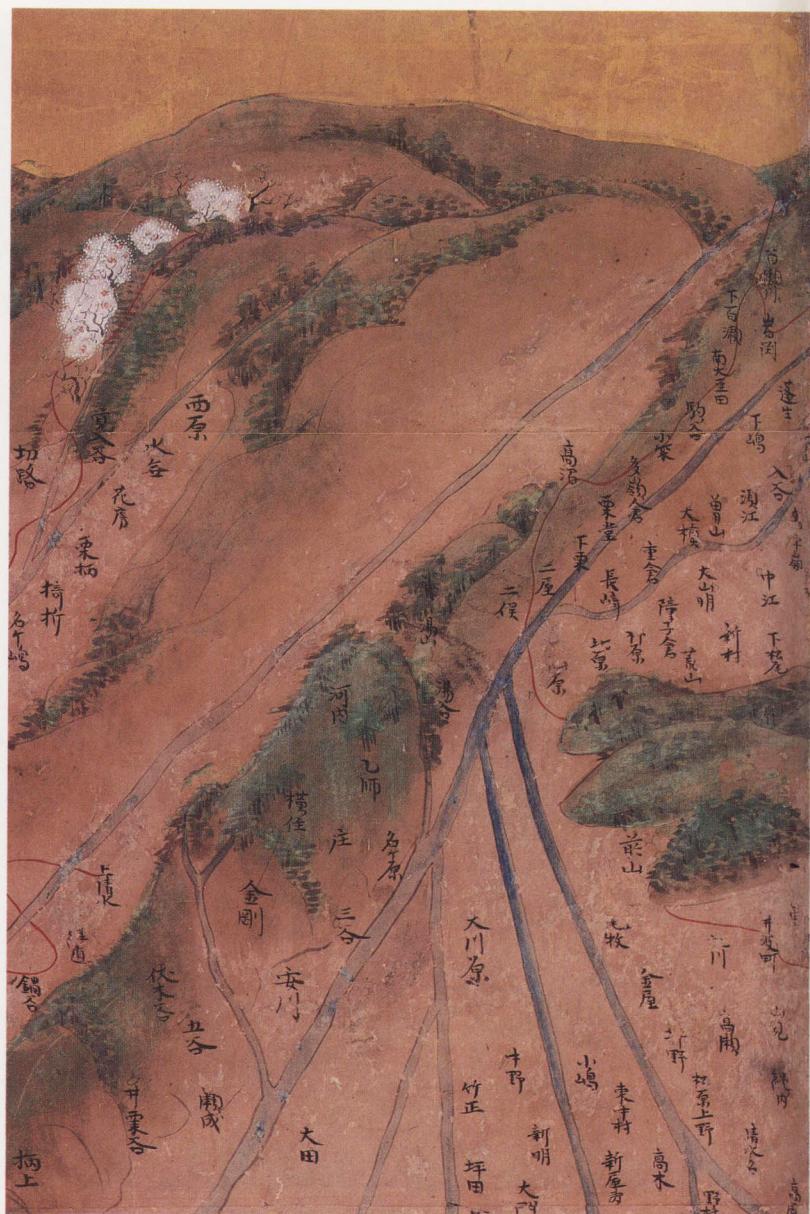




百瀬川流域（左）と利賀川流域（右）上流を望む（空撮）



にも、越中絵図としては最古の部類に入る逸品とみられている。藩政初頭の成ヶ谷（北豆谷）、南大豆田（大豆谷）、蓬生（北島の古名）、鷹見場（大勘場）、（本文70ページ参照）。



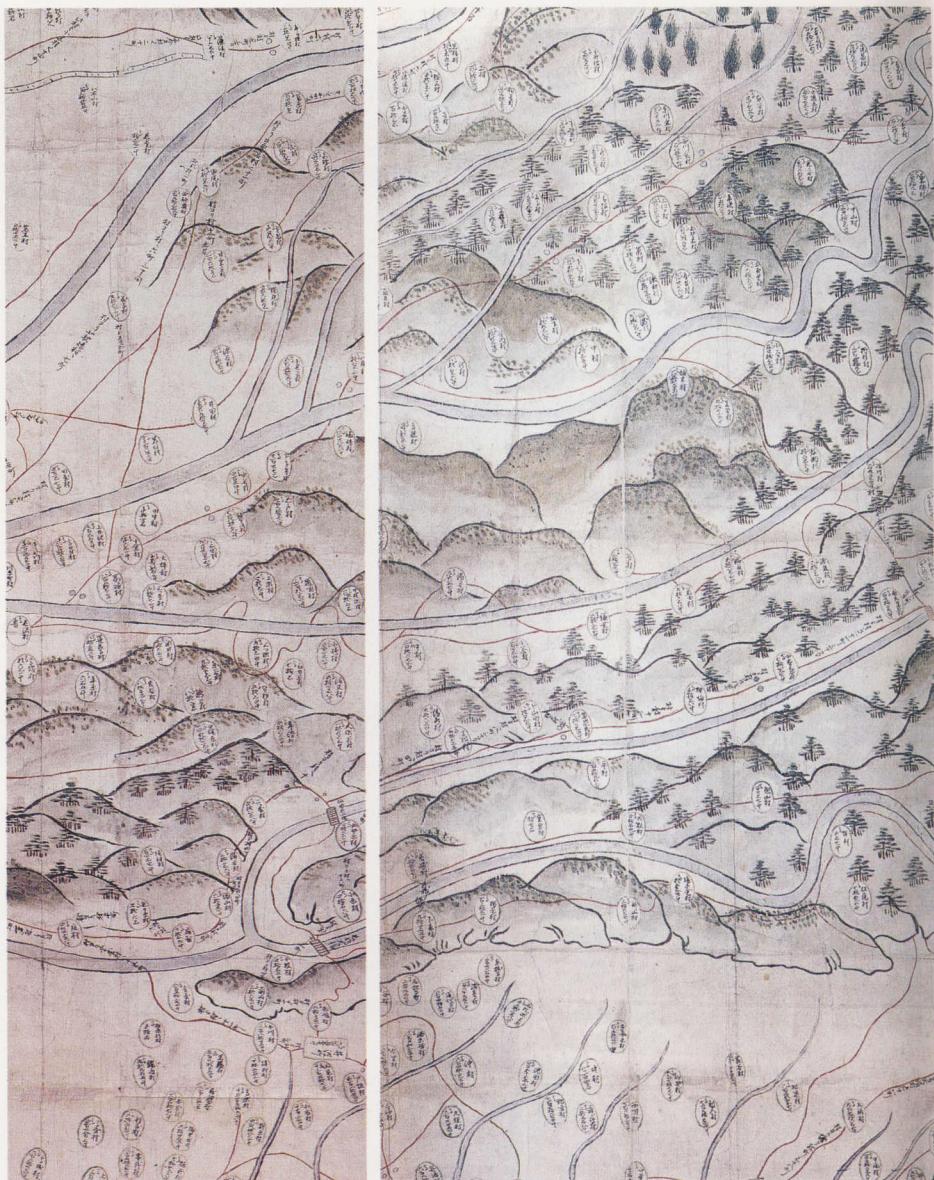
### 越中国図屏風（部分）

財団法人 富山佐藤美術館蔵

この絵図は加越能文庫の『越中国古絵図』や宇野慶一氏蔵の『越中国図』と对立と推定され、利賀川沿いに栗堂（栗当）、多嶺倉（草嶺倉）、小柴（押場）、駒水並（水無）など、近世の村名とは若干違った村名表記を読み取ることができる



『越後國絵図』（加越能文庫）とともに幕府提出絵図の写しとみられるものである。村の位置  
程、一里塚（：印）、橋、籠の渡りなどが詳細に記されている。



越中国四郡絵図（部分）

小矢部市石動図書館蔵

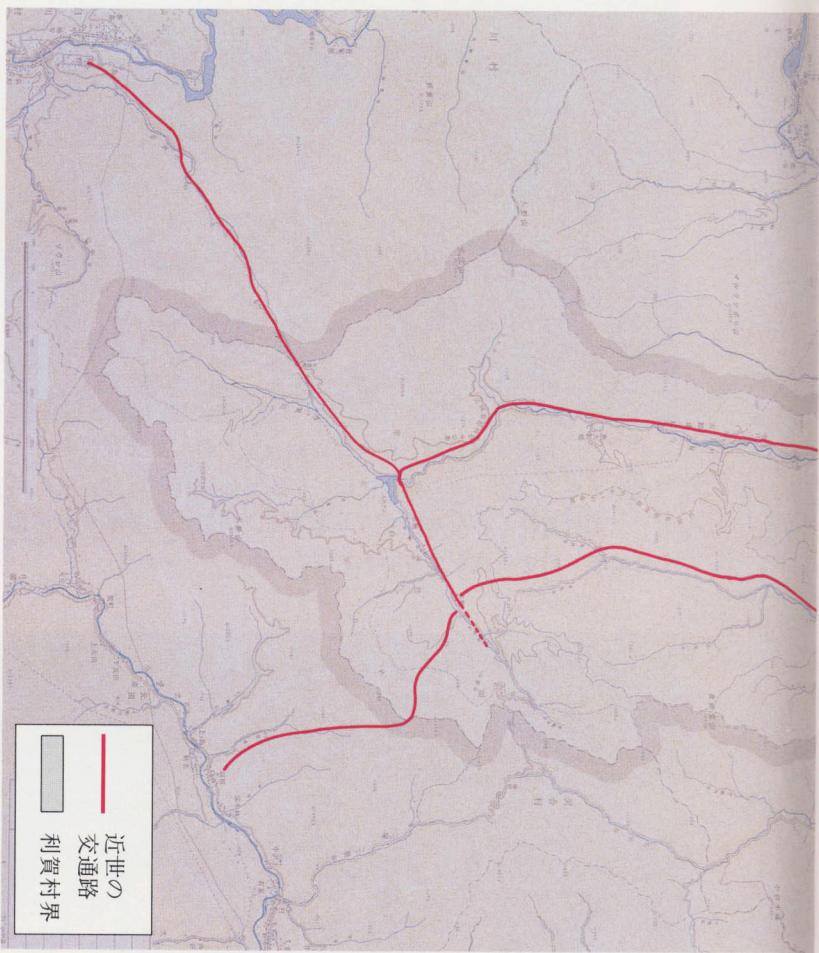
正保4年（1647）、加賀藩は幕命により領内絵図を作成・提出した。この絵図は『加越能三などには必ずしも正確でないところもあるが、主な街道（朱線）、村名と草高、村々間の里

## 利賀村全図



地名対称表

近世	現在
新山村	新山 やま
柄原村	柄原 はら
下原村	下原 はら
大牧村	大牧 おおまき
重倉村	重倉 じゅうくわ
長崎村	長崎 ながさき
北原村	北原 はら
仙納原村	仙野原 せんのばら
九里ヶ当村	栗當 くりがとう
高沼村	高沼 たかぬま
草嶺倉村	草嶺 そうりょう
押場村	押場 おしむら
北大豆谷村	北大豆谷 きたあずまや
南大豆谷村	南大豆谷 みなみあづまや



建設省国土地理院発行の5万分の1地形図より作成

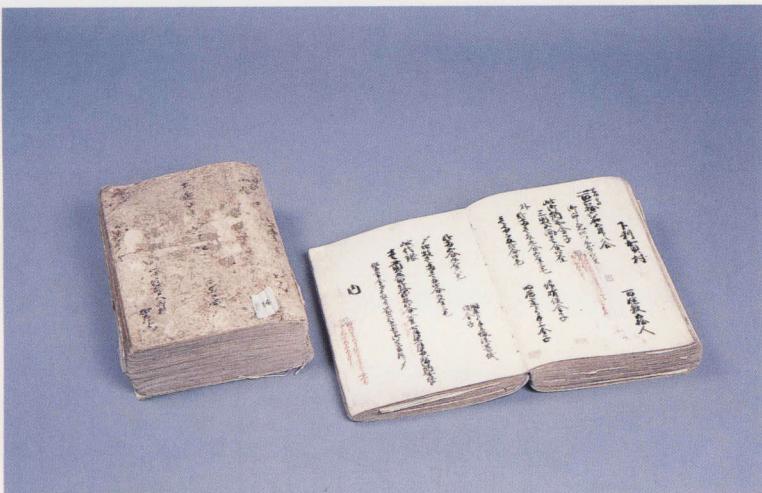
注 現行の地名は大正2年の村議会で議決され、現在に至っている。ふりがなも同年の議決書によつたが、一部に現在の呼称と異なるものがある。

下百瀬川村	白瀬川
上百瀬川村	上白瀬
下利賀村	利賀
下嶋村	利賀
岩瀬村	岩瀬
北嶋村	北島
細嶋村	細島
上畠村	上畠
坂上村	坂上
阿別當村	阿別當
大勘場村	大勘場
水無村	なし



村指定文化財 南大豆谷村土地文書 南大豆谷区有

文政元年（1818）の碁盤割以降の土地関係史料がほぼ完全に保存されており、加賀藩政下の土地制度のみならず、明治の地券制度への移行の経緯をも解明し得る貴重な史料である（本文268ページ参照）。



村指定文化財 五ヶ山両組草高免附百姓数品々帳 利賀民俗館蔵

『利賀谷組三十七ヶ村草高免附百姓数品々帳』と『赤尾谷組三十三ヶ村草高免附百姓数品々帳』から成り、天保10年（1839）から明治4年（1871）までの百姓持高の移動が記されている。本書では『天保十年品々帳』とした。



利賀民俗館

約200年前に建築された合掌造り家屋を移築して昭和44年に開館。平成7年、後世の増改築部分を建築当初の姿に復元し、現在地に再移築された。内部には養蚕・塩硝・製紙など、近世から近代にかけての産業史料も展示されている。



村指定史跡 栗当の不動明王摩崖像

近世の利賀谷街道の入口、仙納原小橋近くの巨岩に半肉彫りされ、「天保十五年（1844）甲辰四月□八日 越中住人 森準慶作」の造像銘がある。難所の多い利賀川筋往還の守護を不動明王の靈威に託して刻まれたものとみられる。

加越能名物往來

五箇往來

五箇往來 五谷山文庫

中世以来、庶民教育の教科書として重要な役割を担つた  
いわゆる往来物の一つで、五ヶ山の地誌について要説して  
いる。編者・成立年代は明らかでないが、奥書に「文政二卯  
(一八一九) 蘭月(七月) 中旬書之」とあつて本書の書写年  
代を示しているのは注目される。現在、前に「加越能名物  
往来」、後に「八尾往来」が合綴されているが、それぞれの  
筆跡は異なっている。

五箇往來



越中五箇山與申者高巖名譽之所也黎  
民合好甚異諸氏尋其盤觴如形不非無謂  
往昔戰國比諸家之公武依勅命爲防強敵襲  
來越地雖抽忠節枝犯大敵節從卷軍中討  
死故臣二度悲仕余君麓此山中勤農民耕  
作偏入賢者行子孫永相傳依之雲客名士

之舊跡也言葉正字當改誠形陋而志

詩歌管弦道廊丈武兩道唯雖似望懷

猴月爲公士之後胤故也以岩路石壁揚家

棟梁名物爲勝諸宿賣買商人訛五箇

鄉中名物或貴學之望物新載記之系綿

蠟漆紙裏燭焰者左內一統仕出之名物也

此外大崩嶋渡原御召裏皆薄曾代同中折

白草菅泥藍嶋羊紙同繡梨谷行纏備谷

穢下梨下寫楮桂櫟木祖山杖木大勘場柵

同木地擗谷炭岩淵連弱稿原晒新山杼

縞大牧黑柿同杼餅恩瀨百瀨鹽漬狗脊

上梨下梨兩谷之干狗脊上梨谷葉長松小

谷薰草嶺倉牛房種三名牛房相倉煙艸

城薯蕷同芥下原梨子九里少當串柿北原

芋長崎蘚仙納原峯上百瀨川蓄麥西赤

尾小麥水無臭大勘場熊膽同粟草曲尾

椎草阿別當地草足倉谷赤獨活中根筍子

庄川熟小谷川岩丸利賀川雜喉薰久喜者

五箇一山之名物也右產物仕賣人之注文運送

之示鄉乾有大牧溫泉洗諸人病苦其來

由尋昔藥師架來顯爲足折鶴繩成入池

爲見平愈給丈諸人是浴得治萬病其後溫

湯之近邊樸名岩處瑠璃堂建立而奉納藥

師如來尊像旁鳩湯山叮婢堂作虹梁曜雲

宣靈驗無雙之勝地也東赤尾一向專修有道場

文明明應之比念佛堅同行者遵守宗之古跡

是也西赤尾有行德寺南上納山西勝寺其他力

直入之勸念佛造惡不善凡丈六字以名號西

方之岸渡辰已有金剛堂山五ヶ第一之高山  
寒冷甚敷事起過三之山此山爲躰四方人里  
隔遙聖賢之宗門儒林籠當山許由巢文學  
解脫重人笠置岩屈行摹出五濁之塵名山也

坤顯發聖人形有山當山者早春造雪深二月八  
葉之月彼胎內如來枝花次第暖氣四月顚首

筒年足究六根成就像依之世人号人形山當九

錫崎山峯有牛龍權現社風景言語爲絕

此外雖多名處舊跡粗畧之極五十之諸民公  
武未蘇而專守仁義禮智信乍不及可曉克人  
之教法近半若齡之輩忘古實遊民放擇人  
之風俗見習長酒宴遊興孔安國誠不耻爲  
僭上無禮受諸人譏刺令身上忘却其處名氣  
先祖之失家業事未代之耻辱何事加之將

又不志耕作農業輩遠蒙神明佛陀加護  
近地頭領主蒙憐子孫繁昌揚中興名於  
萬天事無疑依如件

支政二卯蘭月中旬書之



八尾仲夏

押八尾仲夏正月申服 莺歌是多寬水西  
布町開臺以可接移居之處賤門奉毛之業身  
松下持火於佛餘十程苦寒極風雨落櫛時相  
影接一印酒齋高齋樞密室拂素之丸至二冬  
布町丁利加楠破納入極苦寒極難耳苦役麻栗  
吉恩召勤久猶弟望津蛇江之陸高漢文定法  
而少後方運試目備一切者機蓋山油菜種被幅

## 発刊のことば

四季折々の顔を見せるふるさとの山々。この大自然のふところに抱かれて、我々の祖先は脈々と現在に至る系譜を作り上げてきました。その歴史をひもとき、後世に記録を残していくことこそ、現代に生きる我々の使命かと存じます。

この度発刊する『利賀村史 2 近世』は、遠く縄文時代までさかのぼる利賀村の歴史のうち、加賀藩前田家の治政下に置かれたおよそ三〇〇年の歴史を振り返るものです。

思えば、村史の発刊は多年にわたる村民の宿願でありました。しかし、膨大な資料を検証し、真実と真実をつなぎあわせていく作業は、もとより一朝一夕に成るものではありません。発刊に至るまでには、米沢康氏をはじめとする村史編纂委員各位の並々ならぬご尽力がありました。また、村内外の多くの方々からも一方ならぬご協力をいただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。

本書が、厳しい自然環境の中で時代の道を切り開いてきた先人の苦労を偲ぶ手がかりとなれば幸いです。

平成十一年三月

利賀村長

宮崎道正



## 例　　言

一、利賀村史は三分冊から成り、近世編に相当する『利賀村史 2 近世』を先に刊行した。

一、引き続き『利賀村史 1 自然、古代、中世』『利賀村史 3 近・現代、民俗』を順次刊行する予定である。

一、本文中、故人の敬称は略した。

一、引用史料の字体は原則として常用漢字に改めた。また、変体仮名は、而<sup>て</sup>・江<sup>へ</sup>・与<sup>と</sup>・茂<sup>も</sup>・者<sup>は</sup>を残した。合字は  
る以外はもとの仮名にした。

一、史料中の押印のうち、角印は回<sup>包围</sup>、丸印は印<sup>印</sup>で表した。

一、史料名は、原則として一紙文書を「」、冊子文書を『』で表した。

一、出典および所蔵はできる限り明記したが、頻出史料は文書名のみ記し、所蔵者名などを省略した。所蔵者名  
と文書の種類については次の一覧を参照されたい。

### 文書名の表記と文書の種類、所蔵先一覧

川合文書

菊池文書

杉野文書

十村杉野家文書

加越能文庫

中島文庫

砺波郡内役宅文書

旧加賀藩蔵文書および前田家編輯方採取史料

杉野文書のうち一部流出分

富山市立玉川図書館蔵

福岡町図書館蔵

富山大学付属図書館蔵  
富山大学付属図書館蔵

旧大滝村在住五ヶ山才許十村文書

十村文書

杉野文書

富山県立図書館蔵

山田文書	福野町図書館蔵
井波町肝煎文書	井波町図書館蔵
南大豆谷村土地文書	利賀村大豆谷区有
瑞願寺文書	平村下梨、瑞願寺蔵
寿川区有文書	平村寿川区有
山崎家文書	平村梨谷、山崎甚三郎氏蔵
前崎家文書	平村見座、前崎幸作氏蔵
鉢蠟家文書	平村下出、鉢蠟孝一郎氏蔵
塩硝吟味人・梨谷村肝煎文書	富山市、永森太一郎氏蔵
見座村肝煎文書	上平村小瀬、羽馬誠一氏蔵
中畠村役人文書	上平村細島、生田長範氏蔵
塩硝煮屋惣代・真木村肝煎文書	婦中町、高田重彦氏蔵
塩硝煮屋惣代・小瀬村肝煎文書	利賀村坂上、五谷山西勝寺蔵
塩硝上煮屋・細嶋村肝煎文書	庄川町、齊藤譲一氏蔵
南大豆谷村肝煎文書	
高田重彦家文書	
羽馬家文書	
生田家文書	
五谷山文庫	
五谷山文庫	
斎藤譲一氏蔵文書	
旧井波町才許十村手代文書など	

一、口絵写真は、栗当の不動明王を除き、青山清寛氏の撮影による。

一、見返しには近世の五ヶ山和紙の伝統を引き継ぐ東中江和紙加工生産組合の「悠久紙」を使用した。

# 利賀村史 2 —近世— 目次

口 絵

発刊のことば

例 言

利賀村長

宮崎 道正

## 第四章 利賀谷組の村々——藩政下の姿——

### 第一節 藩政の展開——加賀藩の五ヶ山政策——

一 前田氏の五ヶ山領有

前田利家(三) 越中領有(四) 富山藩の成立(五)

二 草高と年貢

納所変遷のあらまし(六) 前田氏領有前後の納所(八) 天正の検地(一一)

六

三

三

慶長・元和の総検地（一三）	元和の五ヶ山検地（一三）	高と免の決定方法
（一五） 五ヶ山の草高と免（一七）	寛永の御印（一〇）	手上げ（一三）
引き免（二七）	細嶋村・北嶋村の新開（二七）	改作法の実施（三二）
明暦の手上げと村御印（三三）	寛文の村御印（三四）	納所の村々割り付け
（三六） 小物成（三七）	塩硝役金子（四一）	蠟・漆・蓑・紙役金子（四一）
大牧村湯運上（四二）	夏成と冬成（四七）	検地と納所金子（四七）
藩の機構と職制		
村方の支配機構（四九）	年寄衆・家老（四九）	算用場奉行（五〇） 改作
奉行（五〇）	郡奉行（五〇）	その他の役所と役人（五〇）
十村制度		
起源（五一）	職務（五一）	階級と扶持（五一） 五ヶ山の十村の変遷（五三）
藩政初期の組と与（組）頭（五四）		天保の御潤色（五六）
十村を勤めた人々		
下梨村市助（五七）	細嶋村源太郎（五八）	細嶋村（金屋岩黒村）九左衛門（六三）
坂上村太兵衛（六六）	祖山村太郎助と下梨村左左衛門（六六）	岩渕村伊右衛門
（六七） その後の五ヶ山十村（六七）	大牧村六郎右衛門（六八）	五ヶ山惣代（六八）
六 村と人		
村名の固定化（六九）	肝煎（七一）	肝煎扶持（七一）
	肝煎の交代（七三）	

組合頭（七五） 百姓と頭振（七五） 掛作百姓（七六） 肝煎・組合頭名  
一覽表（七七）

## 第二節 五ヶ山の産業 ······

### 一 商品生産と判方 ······

五ヶ山百姓の生計（九〇） 判方の起源（九二） 貸方の認可（九三） 名称の  
変遷（九七） 天保の改革と判方（九七） 奥書証文銀高留の分析（一〇〇）

### 二 紙稼ぎ ······

1 紙漉きの展開 ······

藩への献上（一〇六） 紙漉きの展開（一〇八）

2 紙漉屋と判方商人 ······

楮皮の移入（一〇九） 判方商人の役割（一一一） 文政年間の井波町楮商人

（一一三） 判方制度の利害（一一七） 紙方仕法以前の楮皮管理（一一八）

3 天保の楮方仕法・紙方仕法 ······

仕法実施の背景（一二〇） 楮ならびに紙方仕法の実施（一二一） 野田紙集所の

設置（一二四） 仕法と福光平九郎（一二五） 仕法の成果（一二八） 井波

商人の嘆願（一二八） 紙漉屋の直売願い（一三一） 紙方の諸役人（一三一）

## 4 藩末期の紙生産 ..... 一三四

坂上村宅右衛門の決算（一三四） 楢ならびに紙方仕法の停止（一三七） 坂上村  
 宅右衛門紙方決算書（一三八） 商法会社の設立（一五四） 佳葉組の設立（一五六）  
 明治初期の紙漉き（一五七）

## 三 塩硝稼ぎ ..... 一五七

## 1 加賀藩と五ヶ山塩硝 ..... 一五七

戦国時代の塩硝製造（一五七） 加賀藩への塩硝上納（一五八） 塩硝役金子と御

用塩硝（一六一） 御用塩硝の定量化（一六二） 御用箇数の増減（一六七）

塩硝前銀・御貸米と御延払米（一七〇） 延払米の趣旨の転換（一七一） 延払米

方式の定着化（一七三） 延払米の運用（一七四） 塩硝の他国出津（一七九）

灰汁煮塩硝の村高割付（一八三）

## 2 塩硝煮屋 ..... 一八七

上煮屋と御用塩硝株（一八七） 上煮屋の成立（一九一） 上煮屋の株立て制

（一九五） 塩硝関係の村方諸役人（一九九）

## 3 塩硝の製法 ..... 一〇五

塩硝の製法と原理（一〇五） 主な製法書（一〇七） 塩硝土作り（一〇九）

灰汁煮塩硝作り（一一〇） 中煮塩硝作り（一一一）

上煮塩硝作り（一一三）

## 4 藩末期以降の塩硝製造 ..... 一一四

塩硝の増産（一二四） 株立て制の廢止と復活（一二四） 塩硝産業の終焉（一二七）

四 硝石製造組合 (二一八)	一一九
五 養蚕と生糸.....	一一九
五ヶ山の糸 (二一九) 井波の絹業 (二一九) 五ヶ山の養蚕業 (二一〇)	一一一
五 石灰.....	一一一
石灰の普及 (二一一一) 五ヶ山の石灰焼立 (二一二一) 石灰商人の争い (二二三三) 村人との関わり (二一五) 天保期以降の石灰生産 (二一七) 石灰焼立の停止 (二二八) 石灰焼立の再開 (二二八)	一一一
六 蓑.....	一一〇
五ヶ蓑 (二三〇) 蓑毛 (二三一) 製法 (二三一)	一一〇
七 農林漁業.....	一一四
1 農業.....	一一四
近世の土地利用 (二三四) 享保十九年五ヶ山出来雑穀調べ (二三五) 『私家農業談』 (二三六) 『利賀谷組農事』 (二三七)	一一四
2 林業.....	一四〇
七木の制 (二四〇) 百瀬川両村惣山の伐採 (二四一) 大勘場村持山の伐採 (二四四) 押場村蘿替畠蔭木の伐採 (二四五) 惣山と掛作百姓 (二四六)	一四〇
3 漁業.....	一四九
漁業の小物成 (二四九) 五ヶ山の無役鮎塗 (二四九) 下流村々との争論 (二五一)	一四九

無役築一枚となる（二五三）……………二五五

その他の産物と稼ぎ……………二五五

熊胆（二五五） 蟻と漆（二五八） 山菜・茸類（二五八）

その他の産物  
(二六〇)

### 第三節 基盤割—土地制度—

一 基盤割制度……………二六一

制度の概要（二六一） 五ヶ山の基盤割（二六一） 施行の直接原因（二六四）

内検地と田地ならし（二六五） 基盤割の古記録（二六七）

#### 二 南大豆谷村の基盤割

1 事前の作業……………二六八

実施の決定（二六九） 出願と許可（二七〇） 分地人・竿取人の依頼（二七一）

基盤割定書の提出（二七二）

2 耕地の割り換え……………二八〇

耕地と山地（二八〇） 竿初（二八一） 引地（二八一） 居屋敷引地（二八三）

その他の引地（二八五） 引地の作業順序（二八六） くじ組とくじ割（二八七）

くじ替（二九一） 追掛割と拾割（二九四） 耕地の割仕廻（二九八） 引地と

くじ地（二九八）	測量方法（二九八）	二〇〇	
3 山地の割り換え			
隣村との境界の確認（三〇一）	山地のくじと測量（三〇一）	草領の割り換え	
（三〇一）	その他のくじ割（三〇三）	山地の割仕廻（三〇四）	
4 ブチヨウの作成と決算			
歩帳・手歩帳・小分帳（三〇四）	決算（三〇五）	二〇四	
5 境界の表示			
耕地の境界表示（三〇五）	山地の境界表示（三〇六）	二〇五	
6 竿除地		二〇九	
7 替地		二一二	
三 北大豆谷村の碁盤割		二一四	
耕地の割り換え（三一四）	金割・追掛割・拾割（三一六）		
四 下利賀村の碁盤割		二一八	
下利賀村の碁盤割史料（三一八）	歩引き（三一八）	畠地（三一〇）	漆木割
（三一一）	山地の割り換え（三二三）	寛政の碁盤割（三一四）	天保からの 碁盤割（三二四）
碁盤割（三二四）	雪持林と風持林（三一六）		
五 草嶺倉村の碁盤割		二一六	
文化年間の碁盤割（三二六）	間敷割（三二七）	嘉永の碁盤割（三二八）	

六 各地区の暮盤割史料	一一一八
史料の区分 (三二八) 下原 (三三一) 栗当 (三三三)	高沼 (三三三)
押場 (三三五) 岩渕 (三三六) 上畠 (三三八) 細島 (三三九)	川原割
(三四二) 坂上 (三四四) 大勘場 (三四九)	百瀬川 (三五七) 上百瀬
(三六三)	
七 暮盤割と切高	一一六七
取高歩帳 (三六七) 明治以降の土地売買 (三六九)	
八 明治以降の土地制度	一一七〇
地租改正と暮盤割制度 (三七〇) 地券と暮盤割手歩帳 (三七一)	
第四節 五ヶ山農民の生活	一一七三
一 百姓の暮らし	一一七三
二 日読 (三七三) 衣類の制限 (三七四) 食物の制限 (三七五) 飲酒の禁止	
とぜいたくの戒め (三七五) 報恩講と料理 (三七七) 住宅建築の制限 (三七九)	
博奕 (三七九) 万難と余荷 (三八一) 威し鉄砲 (三八三) 葬儀と香典 (三	
八五)	
二 戸口の変遷	一一八七
宗門帳と百姓縮り (三八七) 百姓の相続 (三九一) 百姓の名前 (三九三)	

縁組（三九三） 分家（三九五） 借家稼ぎと引越し（三九五） 家数・百姓数

と人口の推移（四〇二）

三 岩渕村伊右衛門家の命運

岩渕村伊右衛門（四〇三）

四〇三

## 第五節 近世の交通

### 一 交通路の変遷

二ツ屋越え（四一五）

柄原峠（四二〇）

杉谷越え（四二〇）

仙納原大橋

小橋（四二一） 飛驒街道の変遷（四二六）

だお道（四二九）

下原—北原

長崎間の籠の渡り（四三八） 篠の渡りから渡し舟へ（四四一）

利賀谷から百瀬

谷への交通（四五五）

四一五

### 二 番 所

口留番所（四四七） 過書と往来手形（四四八）

番所を通過した品々（四五二）

番所の収支（四五三） 柵の設置（四五四）

大勘場口の番人（四五四）

飛驒

への塩の移送（四五五） 富山藩境での洩物改め（四五七）

洩物改番所と薦役

（四五八） 関所・番所の廃止（四六一）

四四七

## 第六節 幕末の世情

## 一 天保の高方仕法

- 天保の飢饉と農民階層の分極（四六二） 天保の改革（四六二） 高方仕法の内容  
 （四六三） 町人持高の没収（四六三） 質入高没収（四六四） 掛作高買い戻  
 し（四六六） 仕法による取揚高（四六九） 個人別の被取揚高（四七二）  
 在地豪農と高方仕法（四七四）

## 二 長崎村茂右衛門騒動

- 事件の背景（四七七） 井波町の動き（四七九） 利賀谷百姓の蜂起（四八〇）  
 打ち毀し（四八一） 三宅修理の日記（四八三） 捜査の進展（四八五） 利賀  
 谷百姓の取り調べ（四九〇） 茂右衛門入牢（四九四） 公事場での詮議（四九六）  
 村役人の投獄（四九九） 相次ぐ牢死（五〇〇） 代牢願（五〇一） 出牢と牢  
 死の伝達（五〇三） 量刑の決定（五〇六） 碴（五〇七） 入牢者の罪状（五  
 〇九） 禁牢者の家族（五一三） 関連書物の出版（五一五） 安政義人慰靈之  
 碑（五一八） 史料の所在（五一九）

四七七

四六一